

令和7年度 主要農作物の生育状況

秋まき小麦	<p>播種期 (9/24) は平年並だった。根雪は12月31日と平年より24日遅く、播種後の気温が高く推移したことで越冬前の生育量は平年を上回り、冬損の発生も少なかった。融雪 (3/29) は平年から1日遅く、起生期 (4/5) も7日遅れた。幼穂形成期 (5/1) は2日遅く、出穂期 (6/6) は3日遅かった。越冬茎数が多く、出穂まで適度に降水もあったことで出穂期穂数は平年並みに確保された。出穂後は過去に例を見ない高温で経過したため、成熟期 (7/12) は7日早く、登熟日数は40日間と平年より6日短くなった。極端な高温乾燥により収穫始 (7/14) は過去最速であり、収穫期 (7/19)、収穫終 (7/22・早8日) と短期間で作業が終了した。防除の徹底もあり赤さび病の発生は遅く影響も少なかったが、登熟が急なため小粒細麦傾向で整粒歩留まりは低く、製品収量は平年をやや下回る結果となった。</p>
ばれいしょ	<p>植付終は4月下旬の降雨により遅れ、食用 (5/9) で8日遅く、加工用 (5/14) は7日遅れた。それに伴い萌芽・着蕾も遅れ、着蕾期は食用 (6/10) で4日遅く、加工用 (6/17) は2日遅かった。6月中旬以降の連続高温は9月上旬まで続き、開花期は食用・加工用共に平年並み (6/22・6/27) だったものが、終花期 (7/12・7/16) は食用で4日、加工用は7日早まり、茎葉黄変期は食用 (8/2) で1日早く、加工用 (8/7) は4日早くなった。7月6半旬からは降水日数が増加し、それまでの高温乾燥の影響で停滞していた塊茎肥大が再び活発になり2次成長が多発した。それまでの高温乾燥の影響で整品も小玉となり低収だった。高温で登熟した影響で、でんぷん価も低く、晩性品種に至るまで影響が及んだ。</p>
豆類	<p>豆類の播種期は大豆 (5/16)、小豆 (5/21)、金時・手亡 (5/27) と平年並みだった。出芽は良好で、6月から7月にかけてかつてない高い気温で経過したことですべての豆類の開花が過去最速となった。開花期は大豆 (7/7)、小豆 (7/17)、金時 (7/3)、手亡 (7/8) で平年比5～12日と大幅に早まった。7月下旬は平均気温が平年の最高気温を上回る28.3℃、5半旬の最高気温の平均は36.4℃となるなど異常な高温で経過し、礫層が近い沖積ほ場の大豆では、干ばつによる落葉が発生し生育が停滞する症状もあった。小豆の草丈は7月下旬～8月中旬が高温で経過し、葉数も多いことから平年を大きく上回った。金時は6月下旬～7月上旬が高温で経過し、開花が著しく早かったことから草丈が短くなった。平年に比べ成熟期は大豆 (9/12) 早10日、小豆 (9/7) 早6日、金時 (8/24) 早10日、手亡 (9/3) 早10日と大幅に早まった。大豆は着莢数は多いがマメシンクイガの発生が多く、整品収量の低下が懸念されたが、適正防除により被害は回避され、品質は平年並みで収量は平年を上回る予想となった。小豆は開花前の高温に影響され、下位節の莢は不稔を生じたが、その後も高温で適度に降雨もあったことから上位節での着莢状況が良好となり、懸念された濃赤粒や極端な小粒を生じることなく、品質は良好で収量も平年並みが予想される。矮性菜豆 (金時・手亡) は開花前後に高温に遭遇したため結莢率が著しく低下した。金時・手亡共に着莢数は平年を下回り、着莢不良による莢先熟と2次成長による青莢が多発し、登熟は不良で整品収量は平年を下回る予想。</p>
てん菜	<p>直播の播種作業と移植作業は4月下旬の降雨により遅れ、移植期 (5/6) 遅6日、直播は播種期 (4/26) 遅3日だった。苗の活着や直播の出芽は良好で、6月上旬から高温多照に経過したことで、7月1日には直播・移植共に平年を上回る生育となった。その後も記録的な高温が継続したが降水量は少なく、干ばつ傾向となり石礫ほ場ではしおれや葉枯れが生じた。7月中旬からの降雨で地上部生育は回復がみられたものの、根部の肥大までは至らなかった。高温乾燥が続いたことと防除の徹底により褐斑病の発生は少なく被害を回避した。9月中旬以降は気温の低下とともに、まとまった降雨が連続し、根部肥大が停滞した。10月の気温は平年並みからやや低く経過したにもかかわらず、根中糖分は昨年以上に低下しており、根重も平年を下回ることが予想される。</p>
ながいも	<p>植付、萌芽は平年並で、6月以降、高温多照で経過したため、初期生育は良好、その後の地上部、地下部の生育も旺盛だった。収穫時のいも長は「やや長」、いも径は「平年並」となり、いも重は「やや重」となり、収穫時の乾物率は「平年並」となった。病害虫については、ハダニ類、コガネムシ類の発生がやや多かったが、生育、収量に与える影響は小さかった。</p>

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">牧草 (チモシー)</p>	<p>萌芽期は4/11(遅3日)、1番草生育期間中降水量が少なく(平年比7割)気温は高く推移した。チモシーの草丈は平年並みに伸張したものの、出穂始は6/8(遅3日)となった。1番草の収穫始めは6/13(遅1日)で、その後作業は順調に進み収穫期が6/19(早1日)、収穫終も7/1(早1日)となった。なお、1番草の生収量は2,501kg/10a(平年対比91%)となった。2番草の再生、生育期間に高温の影響を受け、極端な再生の遅れや生育の鈍化が見られるとともに、一部の圃場ではチモシー個体の枯死も散見され、2番草の生収量は970kg/10a(平年対比70%)と平年を大きく下回った。なお、2番草の収穫は平年に比べて遅れて始まり、収穫始8/17(遅2日)、収穫期8/26(遅2日)、収穫終9/4(遅3日)と平年に比べて遅れて作業が進捗した。なお、牧草の年間合計生収量は3,471kg/10a(平年対比84%)と平年を下回る結果となった。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">サイレージ用 とうもろこし</p>	<p>播種は平年に比べ遅く始まり、播種期で5/12(遅5日)、播種終わりは5/17(遅4日)となった。生育期間中(5月上~9月下旬)の積算気温が平年を大きく上回ったことで、生育は早く進み、雄穂抽出期7/17と絹糸抽出期7/18はいずれも平年より早8日となった。熟期においても糊熟期8/20(早7日)、黄熟期9/1(早7日)と登熟が早く進んだ。収穫作業は収穫始8/30(早8日)と平年に比べ早く始まり、収穫期は9/14(早8日)、収穫終は10/1(早6日)となった。収穫期間中の9/20から21日の降雨(98mm)と強風により、一部の圃場で倒伏が発生した。なお、収量調査における生総重は5,316kg/10a(平年対比85%)と平年を下回り、登熟が早く進んでいたことで乾物率は本年29.6%(平年26.6%)と平年より3.0ポイント高いものの、TDN収量は1,106kg/10a(平年対比94%)と平年を下回った。</p>

作況調査概要及び10a当たり収量

作物名		生育状況						10a当たり収量		
		調査基準日	項目(単位)	数量	項目(単位)	数量	項目(単位)	数量	本年(kg)	平年(kg)
秋まき小麦 (きたほなみ)		7/15	稈長 (cm)	79.5 (77.3)	穂数 (本/m ²)	657.5 (764.0)	穂長 (cm)	8.7 (9.1)	601	634
馬鈴しょ	食用 (メークイ)	8/15	茎長 (cm)	56.6 (71.6)	茎数 (本/株)	3.5 (4.0)	-	-	2,576	3,148
	加工用 (トコ)			56.0 (63.9)		3.3 (3.3)		-		
大豆		9/15	茎長 (cm)	71.2 (72.7)	葉数 (枚)	9.8 (9.9)	着莢数 (個/m ²)	566.9 (551.5)	326	314
小豆		9/15	茎長 (cm)	80.7 (59.5)	葉数 (枚)	12.3 (10.9)	着莢数 (個/m ²)	331.1 (350.8)	172	240
金時		9/1	茎長 (cm)	39.8 (50.1)	葉数 (枚)	4.3 (4.3)	着莢数 (個/m ²)	108.9 (121.3)	130	140
手亡		9/15	茎長 (cm)	56.3 (59.2)	葉数 (枚)	8.0 (8.2)	着莢数 (個/m ²)	150.0 (160.0)	162	184
てん菜		10/15	根周 (cm)	42.2 (42.2)	-	-	-	-	6,905 (15.3)	7,252 (16.2)
ながいも	川西地区	11/1	いも長 (cm)	88.5	いも重 (g)	1,575	いも径 (mm)	74.5	4,118	4,220
	大正地区			86.5		1,149		56.0		
牧草		1番草 6/15 2番草 8/15	1番草 丈 (cm)	107.3 (106.5)	2番草 丈 (cm)	83.0 (99.7)	-	-	3,471	4,133
サイレージ用 とうもろこし		8/15	稈長 (cm)	268.0 (287.0)	葉数 (枚)	18.9 (17.8)	-	-	5,316	6,052

注1) 生育状況：帯広市農業施策推進委員会調べ。下段()は平年値

注2) ながいもの平年値については、JA帯広かわにし管内の作付品種が「とちかち太郎」に切り替わってから3年が経過していないため、記載していない。

注3) 10a当たり収量における平年値：帯広市調べ。てん菜下段()は糖分

注4) 10a当たり収量における本年値：帯広市推計値

注5) 10a当たり収量：秋まき小麦はきたほなみ、ゆめちからを、馬鈴薯は食用、加工用、澱粉用、種子用を含む。